

高活協通信(2022年10月号)

発行：一般社団法人 高齢者活躍支援協議会

<http://www.agenomics.org>

◆◆◆高活協ニュース◆◆◆

■お知らせ

- 亡くなられた上田研二前理事長の「お別れの会」が、(株)高齢社の主催で開催されました。
- 今月の「70歳就業法」関連情報欄に、「継続雇用はポストからジョブへの移行期間か」を掲載しました。
- 高活協通信「今月の一冊」は、「40歳からのキャリアチェンジ[第2版]～充実した人生を送るための求職・転職術～」です。
- 高活協ホームページを更新しました。
 - ・「高活協ホームページ」の URL は以下の通りです。

<http://www.agenomics.org>

高活協は会員の皆様に毎月1回「高活協通信」を配信させていただいております。この通信活動を会員の皆様と高活協とのコミュニケーションの機会とさせていただきたく考えております。つきましては、皆様のご意見や提供したい話題などがございましたら、本配信メールへの返信にてお寄せいただければ幸いです。

■2022年9月の主な活動

- 高活協は現在、シンポジウムなど人が多く集まるイベント活動を自粛しております。ただし、少人数の会議やZOOM等を利用したオンラインの会議・イベント等は新型コロナの感染状況を睨みながら適宜実施しております。
- 2022年9月2日、東京大学主催の高齢者地域就労研究準備会の第1回意見交換会(ZOOM会議)に委員として参加しました。本研究会は、辻哲夫元厚労省事務次官や岡崎淳一元厚労省審議官、秋山弘子東大名誉教授などが委員として参加、また厚労省の高齢者雇用対策課長なども非公式に参加して活発な意見交換が行われました。
- 2022年9月20日、亡くなられた上田研二前理事長の「お別れの会」が、(株)高齢社の主催で東京プリンスホテル2階サンフラワーホールにて開催されました。高活協の会員の方々も参加し、前理事長を偲んで献花を行いました。
- 「70歳就業法」関連情報欄では、「継続雇用はポストからジョブへの移行期間か」を掲載しました。
- 高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ページにおいて、「高活協通信(2022年9月号)」を掲載しました。
- 2022年9月、生涯現役社会の実現に向けた行政や企業などの動向に関する情報収集を行いました。なお「70歳就業法」関連情報は、「◆◆◆生涯現役社会の実現に向けてー トピックス◆◆◆」のコーナー

に、適宜掲載していきます。

◆◆◆高活協主催/共催イベントの紹介◆◆◆

■これまで高活協が主催した(共催含む)イベントの報告書/記録集

過去に高活協が主催・共催したイベント(シンポジウム、セミナー/フォーラム)の報告書や記録集は、高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ボタンをクリックしてご覧になれます。(ホームページは下記 URL)

<http://www.agenomics.org/>

◆◆◆高活協会員関連イベント等のご紹介◆◆◆

会員のご希望があればご紹介記事を適宜掲載させていただく予定です。

◆◆◆生涯現役社会の実現に向けて – トピックス◆◆◆

生涯現役社会は、「職業寿命」「社会活動寿命」「健康寿命」「資産寿命」という 4 つの寿命の延伸が相乗効果をもたらす社会、すなわち「それぞれの寿命の伸びが相互に他の寿命も伸ばす」という好循環がもたらされる社会です。

そんな生涯現役社会の実現に向けた最近の動きを紹介していきます。

■70 歳就業法 – 職業寿命の延伸と生産性の向上を両立させられるかが鍵

○昨年 4 月から「70 歳就業法」が施行され、企業等に 70 歳までの就業確保措置の努力義務が課されることになりました。企業等にとっては、「70 歳就業法」の施行を、単に国による職業寿命の延伸政策ととらえるのではなく、全社的な人事・雇用制度を見直し、社員の意欲と生産性を高めるための機会と位置づける必要があります。

○今後このトピックスのコーナーでは、「70 歳就業法」の施行に関連した情報を適宜掲載していきます。企業等の人材活用戦略などの参考にしていただければ幸いです。

坂本貴志氏の著書「ほんとうの定年後“小さな仕事”が日本社会を救う」(講談社現代新書)がベストセラーになっています。高齢者の就労本がベストセラーになるのは珍しいのですが、それだけ定年後の就労に世の中の関心が高まってきているということかもしれません。

継続雇用はポストからジョブへの移行期間か

上記の著作の中で著者が強調しているのは、定年前後では働く意識が変わらなければならない、定年前の「競争」意識を定年後は「貢献」意識へと変える必要があるという考え方です。すなわち、定年前はより良

いポストに就くための「ポスト」獲得競争ですが、定年後は自分の経験や知識で貢献できる「ジョブ」に就いて働くという意識に切りかえなければならないということです。

現在、多くの企業では定年後に再雇用して継続雇用となりますが、なかなか意識変革ができていないのが実情のようです。それは日本の企業の多くが「メンバーシップ型」雇用制度を採用しているからです。最近では「ジョブ型」雇用制度を導入する企業も増えてきていますが、IT 分野など専門職が中心です。結果として定年後も「メンバーシップ型」の意識を引きずってしまい中途半端になってしまっているのではないのでしょうか。そこで、少なくとも継続雇用の期間を意識変革の移行プロセスと捉え、その期間に働く意識を変えることが求められます。

これまで多くのサラリーマンは、入社してから定年までは少しでも上のポストに就きたいと思いながら働いていたと思います。つまりメンバーシップ型のポスト獲得競争です。しかし定年後は、もはや就くべき上のポストはありません。基本的にあるのは仕事だけです。その意味では本来的にジョブに就かなければならないジョブ型です。「メンバーシップ型」から「ジョブ型」への意識変革、そのキーワードは「ポストからジョブへ」です。これは「競争から貢献へ」と言い換えることもできると思います。

65 歳～69 歳の就業率は 50%を超えました。70 歳の就業率も 45.7%に上るとのことです。これからは 70 歳を過ぎても働く人が増えてくるでしょう。その時の働く場所ですが、継続雇用されてきた企業のメンバーから退出して、地域などで働くケースが増えてくるでしょう。その場合に重要なことは「ポストからジョブへ」の意識変革です。地域にはポストは用意されていません。あるのはジョブだけです。よく聞く笑い話ですが、地域で働きたいサラリーマン OB に「何ができますか」と聞くと、「部長ができます」、「常務ができます」と答える人がいるとか。まさにメンバーシップ型の意識から抜け出せていないのです。

企業から出て地域で働くためには、定年前後の移行プロセスにおける「ポストからジョブへ」の意識変革の重要性がますます増してくることでしょう。

◆◆◆読み物コーナー◆◆◆

■今月の 1 冊

人生 100 年時代を迎え、シニア層の増加を意識した書籍が増えているようです。このコーナーでは、高齢者の就労に関わるテーマや高齢者の社会参加、ライフスタイル、健康問題などを取り上げている書籍を紹介します。

書 名:40 歳からのキャリアチェンジ[第 2 版]

～充実した人生を送るための求職・転職術～

著 者:くすやまあきひこ楠山精彦、和田まり子

編著者:NPO 法人キャリアスイッチ

出版社:経団連出版

(URL <https://www.keidanren-jigyoservice.or.jp/>)

定 価:1,760 円(税込)

人生 100 年時代の到来とともに、新卒で採用されてから定年まで勤めることによって職業人生を全うするばかりではなく、転職を重ねたり、場合によっては起業するなどして職業人生を送るケースが増えることが予想されます。一方、人口減少下においては、40 歳以上のシニア・ミドル世代を即戦力として採用する企業が増えてきていると言います。なかには、「採用する人材の年齢は問わない」としている企業もあるようです。豊富な経験と高い専門性を兼ね備え、新たな環境に適応する力があれば、誰もが生涯現役で働くことができる可能性が広がりつつあるということになるでしょう。

しかし、シニア・ミドル世代の誰もが転職や起業に成功しているわけではないことも、また事実。このような状況を踏まえて、“40 歳からのキャリアチェンジ”を成功させるためのノウハウを簡潔にまとめたのが今回ご紹介する書籍です。

シニア・ミドル世代が転職を成功させるためには、「自分なりの強みを発見し追求していくこと」が必要とされていますが、働く人のキャリアをめぐる問題に精通している著者が、本書でそのために必要なノウハウを各章で説き明かしています。

たとえば、第 3 章「提出書類を作成する」では、「履歴書作成のポイント」、「職務経歴書の作成」、「求職のためのマーケティング戦略」などを具体的に紹介。また、第 4 章「採用内定を得るための折衝法」では、「内定獲得につなげる面接対応法」、「面接のマナーとエチケット」、「採用決定後の過ごし方」などが取り上げられています。

本書の「はじめに」には、「転職やキャリアチェンジにあたって、最初の一步がスムーズに踏み出せることを願って、この本は書かれました」と記されています。シニア・ミドル世代が転職する際のテクニックだけを学ぶのではなく、サブタイトルにあるように、転職によって充実した人生を送りたいという人にお勧めします。

(個人賛助会員:坂巻 大)

■高齢者雇用の総合誌『エルダー』2022 年 10 月号(2022 年 10 月 1 日発行)のご紹介

発行:独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

<http://www.jeed.go.jp/elderly/data/elder/index.html>

<特集>令和 4 年度 高年齢者活躍企業コンテスト

～厚生労働大臣表彰受賞企業事例から～

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構では、厚生労働省との共催で、「高年齢者活躍企業コンテスト」を毎年開催しています。本コンテストは、高齢者が年齢にかかわらず生涯現役で生き生き働くために、人事制度の改定や職場環境の改善などに、創意工夫をして取り組む企業を表彰するものです。令和 4 年度は、厚生労働大臣表彰 6 編、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長表彰優秀賞 8 編をはじめとする 30 編の受賞が決まりました。本誌では、10 月号と 11 月号の 2 回に分けて、コンテストの表彰事例を特集します。今号では、厚生労働大臣表彰受賞企業事例をご紹介します。

審査委員長からのメッセージ 法政大学経営大学院教授 藤村博之

最優秀賞 株式会社恵那川上屋(岐阜県恵那市)

優秀賞 株式会社トーケン(石川県金沢市)／モルツウェル株式会社(島根県松江市)

特別賞 八雲製菓株式会社(山梨県甲府市)／五條運輸株式会社(奈良県大和郡山市)／社会福祉法人
愛誠会(岡山県新見市)

<連載>

○リーダーズトーク(No.89)

承認欲求の呪縛を避けるため 問題を相対化する心のゆとりを

同志社大学政策学部教授 太田 肇さんに聞く

○江戸から東京へ 作家 童門冬二(第 119 回)

リンゴの木を植え続ける 吉田松陰

○高齢者の職場探訪 北から、南から(第 124 回)

和歌山県 株式会社浜市

○生涯現役時代の高齢社員活躍支援のポイント(第 3 回)

高齢社員が柔軟に働ける勤務制度を整えよう!

森中謙介

○高齢者に聞く 生涯現役で働くとは(第 76 回)

株式会社人形町今半 相澤竹夫さん(69 歳)

○知っておきたい労働法 Q&A(第 53 回)

定年後再雇用と同一労働同一賃金、通勤手当の変更

○いまさら聞けない人事用語辞典(第 29 回)

「社員教育」

株式会社グローセンパートナー 執行役員・ディレクター 吉岡利之

○集中連載 マンガで学ぶ高齢者雇用 教えてエルダ先生!

(第 4 回) 高齢社員が新しい仕事のやり方を覚えてくれません

○日本史に見る長寿食(vol.348)食文化史研究家 永山久夫

ワカメの若返り効果

○技を支える(vol.320)

仏壇製作 岩田芳樹さん、晴芳さん

○イキイキ働くための脳力アップトレーニング!(第 64 回)

◆◆◆ ◆◆◆

配信先メールアドレスの変更をご希望の方、また配信が不要な方は高齢者活躍
支援協議会・事務局までご連絡ください。

本通信に対するご意見やご感想をお聞かせください。

また、本通信に掲載してほしい情報等がありましたら、ぜひご連絡ください。

一般社団法人高齢者活躍支援協議会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 17-2 兜町第 6 葉山ビル 4 階

TEL: 03-6555-3926 HP: <http://www.agenomics.org>
